

佐渡米通信

こめる

2021年 **11** 月号

発行日:2021年11月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部販売企画課 駒形・澁谷・渡辺(清)
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

令和3年産米の集荷・検査状況

10月15日現在、コシヒカリの1等米比率は89%(進捗率約70%)となっています。

夏の高温により出穂前までは品質低下が心配され品質・収量確保に向け穂肥の追加対応などの呼び掛けが行われました。

出穂後は日照不足で登熟不良が心配されましたが、前年より1等米が多く「乳心白米」や「胴割れ米」の発生が少ない高品質米に仕上がっております。検査期間は10月下旬までの見込みです。



令和3年産新米の検査の様子



JA佐渡倉庫に集荷されている様子

田んぼアートで佐渡米のこだわりを体感

10月2日に田んぼアートで稲刈りが行われました。この田んぼアートでは田植えから稲刈りまでの体験交流を実施しています。

参加した地域の子供達や関係団体の方に田んぼアートを通してJA佐渡が推奨する“農薬や化学合成肥料を佐渡慣行栽培基準より5割以上減らした米作り”や“朱鷺の餌場の環境に配慮した田んぼづくり”など佐渡米ならではのこだわりを知って頂けるきっかけとなっています。

JA佐渡公式Facebook「佐渡のたんぼにつき」やInstagramで田んぼアートの稲刈りをしている様子など、産地情報をご覧いただけます!



見ごろを迎えた田んぼアート
(7月24日の田んぼ体験交流の様子)



稲刈りをしている様子

アカトンボのいる田んぼ

JA佐渡では、佐渡米の要件の1つとしてトンボやミツバチの生態に影響を与える「ネオニコチノイド系農薬」の不使用を掲げています。

全国的に数が減少しているアカトンボですが、JA佐渡管内ではアカトンボの飛び交う光景を見ることが出来ます。トンボの生息数は生態系を測る指標とされており、この取り組みが生物多様性の保持に繋がっています。



稲穂に止まるアカトンボ

祝! 新十両昇進 朝乃若にJA佐渡コシヒカリ贈呈

佐渡市出身で高砂部屋所属の現役大相撲力士「寺沢」が新十両に昇進し「朝乃若(あさのわか)」を襲名しました。JA佐渡からはお祝いに、15戦負けなしの白星(○)を重ねてほしいとの願いを込めて「佐渡産コシヒカリ」を150kg贈呈しました。

朝乃若は東幕下筆頭で迎えた秋場所で5勝2敗の成績を収めました。佐渡市からの関取は1941年春場所西前頭十二枚目佐渡ヶ嶋林蔵、1973年夏場所新十両の尾堀(のちの小結大錦)以来、昭和以降3人目となりました。今後益々のご活躍が期待されます。



JA佐渡・島内企業からの贈呈品

JA佐渡の公式Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>

